

西暦 2024 年 8 月 29 日

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報の公開について

当センターでは、下記の研究を実施しております。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づいて、研究対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、情報を公開することにより実施しております。この研究に関するお問い合わせ、研究参加への拒否依頼などがありましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

研究機関名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター
研究課題名	先天性心疾患患者における、肺体血流比の内頸静脈血管径に対する影響
研究代表者 氏名・所属部署	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 麻酔科 竹下淳
研究対象者 (研究対象者等が自身が対象者であると容易に知り得るように記載)	2019 年 4 月から 2024 年 7 月までに全身麻酔下に心臓血管外科手術を施行された 10 歳未満の患者
研究期間	研究実施許可後～2025 年 3 月
研究目的・方法 (意義、目的、方法、試料等の二次利用等)	先天性心疾患に対する心臓手術の周術期管理において、中心静脈カテーテル挿入は必須の手技であり、その第一選択部位は右内頸静脈です。右内頸静脈の血管径が大きくなるとカテーテル挿入にかかる時間が短くなることが報告されています。先天性心疾患患者では、肺血流(肺へと向かう血流)が体血流(全身へと向かう血流)に比べて増加している場合や減少している場合もあります。肺血流が増加している場合、全身への血流が少なくなり、静脈還流も減少し、内頸静脈の血管径が細くなることが考えられます。今回、肺体血流比と内頸静脈の血管径の関係について、電子カルテおよび麻酔記録の情報をを用いて後方視的に検討を行います。
研究に用いられる試料・情報の項目や種類	年齢、性別、身長、体重、術前の肺体血流比、心拍出量、術前利尿薬使用の有無、Glenn 手術または Fontan 手術後、単心室、内頸静脈の血管径
研究計画書などの研究関連資料の入手方法、または閲覧方法	本研究の研究対象者(等)が、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手または閲覧をご希望される場合、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護等に支障のない範囲で入手、または閲覧ができます。下記の間合せ先までご連絡ください。

個人情報の開示に係る手続き	本研究の研究対象者(等)から、個人情報の開示の求めがあった場合、保有する個人情報のうちその本人に関するものに限って、地方独立行政法人大阪府立病院機構 個人情報の取扱及び管理に関する規程に基づいて、開示手続きをとりますので、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。
照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター 麻酔科 竹下淳 電話 0725-56-1220 (代表)